

衛生管理の改善で疾病予防を

サルモネラ症やヨーネ病などの伝染病が増えていきます。発症すると出荷停止だけでなく、洗浄化まで時間を要し、経営の存続をも左右します。また、バルク乳へ抗生物質の混入事故も例年になく多い傾向にあり、衛生管理の徹底と治療牛の確認が求められます。

一、衛生管理を高める

伝染病を予防するには、細菌やウイルスなどの蔓延を防ぐため、畜舎環境を良くすることが肝要です。

また、季節の変わり目は、子牛の下痢が発症しやすく、コロナやロタなどのウイルスによる感染症にならないよう注意を払いましょう。

そのためには、①畜舎内のホコ

リやくモの糞を除
去、②水槽
やウォー
タカップ
の清掃③
畜舎通路
や牛床へ
の消石灰



写真1 ウォーターカップは清潔に

散布④踏み込み槽の設置⑤パドック泥濘化の修繕などを行うようにしましょう。



写真2 泥濘化したパドックを改修

二、混入事故を防ごう

乳房炎など治療している牛には、マーキングや家族や作業員間できちんと伝達されることが大事です。抗生剤をどの牛にどの乳房に射したかを確認し合う作業が重要です。

三、乳房炎を予防しよう

事故を未然に防ぐには、乳房炎にならないような飼養管理を行

うことが大切になります。

(1) サイレージ品質の確保

不良発酵したサイレージは乳房炎を助長します。カビやアンモニア態窒素が高いサイレージは肝臓を壊して免疫力が低下するため、乳房炎に罹患しやすくなります。



写真3 良質なサイレージを

まずは粗飼料分析を行って、分析値を確認し、給与量を見極めましょう。

(2) 搾乳機器のメンテナンス

ミルカーやパイプラインなどは、搾乳機器は正しく洗浄・殺菌されていなければなりません。洗剤や殺菌剤濃度の確認とミルクチューブやライナーを定期的に交換しましょう。交換時、付け方が悪いとねじれていることがないようメーカー任せにせず自ら確認

をしましょう。また、バケットミルカーは使う用途が限られるので正しく管理しましょう。

バルク室は冷凍機周囲に物があると冷却効果が低下するので整頓しましょう。

(3) 正しい搾乳手順の励行を

表 搾乳の基本手順

- ① 前搾りで乳汁を確認 (しっかり 4~5 回)
- ② 乳頭のみを清拭
- ③ 乳頭乾燥 (ペーパータオルで)
- ④ 60~90 秒後ライナー装着
- ⑤ 搾乳後、ライナー離脱
- ⑥ ディッピング

搾乳時、牛を扱う人の手が不潔では、感染を起こす恐れがあるので、手袋を装着するようにしましょう。



写真4 美味しい牛乳は清潔な環境から